

症例 3



外科診療 症例紹介



消化管内異物（竹串）と外傷性気胸の併発 イングリッシュセッター /2歳 去勢オス

主訴

急な黒色の水様性下痢と元気食欲廃絶で来院。よく散歩中などに誤食をしてしまう。

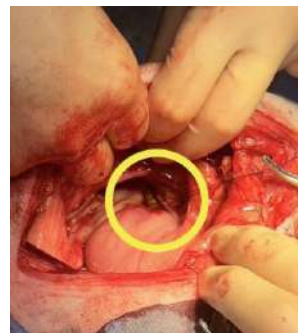
検査

体重減少 18kg→16kg/ 高体温 40.2℃/ 脱水あり
超音波検査にて胃を貫通している棒状の異物様所見を確認。血液検査にて、炎症に関連した値が上昇。十分な静脈点滴の後に全身麻酔下にて内視鏡検査を実施。



治療 手術

内視鏡検査にて胃内に竹串を確認。胃壁に刺さっている可能性が高いため開腹手術を実施。手術にて竹串が胃と右側胸腔内を貫通し皮下組織にまで達しておりました。胃切開を行い竹串を摘出しましたが竹串による外傷性気胸が併発したため横隔膜の縫合と胸腔ドレーンを設置しました。



術後

手術翌日から気胸は改善し元気食欲の改善が認められました。
数日入院を行い自宅経過観察とし、重大な合併症もなく現在も元気に過ごしております。

消化管内異物は、

●急な元気食欲の低下。 ●頻回の嘔吐や下痢（特に嘔吐） ●腹部の痛み

などが認められることが多いです。消化管内異物の発見 / 治療が遅れてしまうと、消化管の穿孔や腐敗が進み命に関わる重大な状態になる可能性が高いです。「いつもよりも元気食欲がないかも?」「何回も嘔吐をしている!」などの気になる症状がありましたら、お早めにご相談ください。